



令和8年  
2月

学校だより  
心ゆたかに かしく たくましく  
～ 自律・感謝～

さいたま市立大砂土東小学校  
048(684)8003  
令和8年1月30日発行

## つながりの糸

校長 石川 顕一



▲ 中庭の梅が咲いています

暦の上ではまもなく春となります。校庭の紅梅は、暦に従って開花しています。しかし、全国的には大きな被害が出るほどの大寒波と大雪に見舞われています。関東地方では乾燥した日が続く、肌を切り裂くような風が吹きすさんでいます。うらかな春がやってくるのを待ち望んでいます。

さて、皆さんは子どもから「友達とは、どのようにつながりをつくれればいいの。」と質問されたら、どのように答えますか。なかなか難しい質問かもしれませんね。

子どもにしても大人にしても、人は人とつながろうとしますが、この人とのつながりは、徐々に作り上げていくものです。

最初は、初めから強いわけではありません。つながっているのかどうかわからないくらいの細いつながりの糸から始まり、他愛もない会話やそれに伴う時間や空間などを共有することで、少しずつ太いつながりの糸になっていきます。そして、気が付いた時には、つながりの糸は絡み合っ、「きずな」となっています。

- ・おはよう。                      ・今日も寒いね。                      ・ナルトダンス、踊れる？
- ・その服、かわいいね。                      ・今日のあげパンおいしかったね。

このような何気なく交わされる日常会話を積み重ねるのです。内容よりも会話をしているという事実、同じ時間、同じ空間を共有している事実が重要なのです。これは、相手に対して自分には敵意がなく、いつでも受け入れる用意があるというメッセージになります。

本校では、子どもたちが教室や廊下で、他愛のない会話で楽しんでいる姿を目にしますが、ご家庭でも同様のことでしょう。子どもたちは、友達だけでなく教員も含めた私たち大人に対してもつながりをつくらうとしてきます。このチャンスに、大人は自分の都合でしっかりと聞いてあげられないことはないでしょうか。学校でも、家庭でも、地域でも、子どもたちの他愛のない話を真剣に聞いていこうではありませんか。